

原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778長期前兆続報 CH29・CH2 に前兆出現 4月中の可能性否定
5月以降の時期の可能性計算可能だが 前兆終息観測後計算予定

通常の地震前兆は、数日～数週間、長い場合でも数ヶ月の前兆期間で地震発生となってきましたが、当該前兆は2008年7月初現以来、本年7月で10年となる前例の無い長期継続前兆として観測されています。

プレート境界型地震では、過去23年の観測では長くても、数ヶ月内で、1年を越える長い場合は全て震源が浅い地殻地震でした。この過去例からは、当該長期前兆の対応地震は、震源が浅い地殻地震である可能性が高いことが示唆されます。

また23年間の観測で、前兆期間の長さは規模に関係なく、歪み速度（震源領域にかかっている力の強さ）に依存している関係が見えます。当該前兆の過去例の無い長さからは、歪み速度の遅い、滅多に地震活動が認められない領域の可能性も示唆

されます。

前兆出現観測装置数も過去最多であることから、確実に陸域の地震であることが言えます。10年近くの間には24のステージとして前兆群が変化して参りました。23年間の観測研究活動の中で、前兆が出現して、発生しなかった地震はありません。従いまして、今回の当該長期特殊前兆の対応地震も必ず発生すると考えます。

前兆の関係から、いつまでは発生しないと云う推定しかできない場合が多々ありますが、前兆変化に注意して観測を続けております。

早い場合を推定して間違った見解の場合もありますが、どうかお許し下さい。

当該長期前兆の現在第24ステージの前兆動向から、最も早い場合は、4月6日±の可能性もあり得ることを報告致しました。但し、その場合には3月中旬以降に前兆終息が観測される筈であり、前兆終息が無い場合は、4月初旬の可能性は否定されることとなります。

ハヶ岳のCH02は、本年1/8に極大認識できます。仮に4/6±の場合には、3/16±には前兆終息となっていなければ経験則に調和しません。

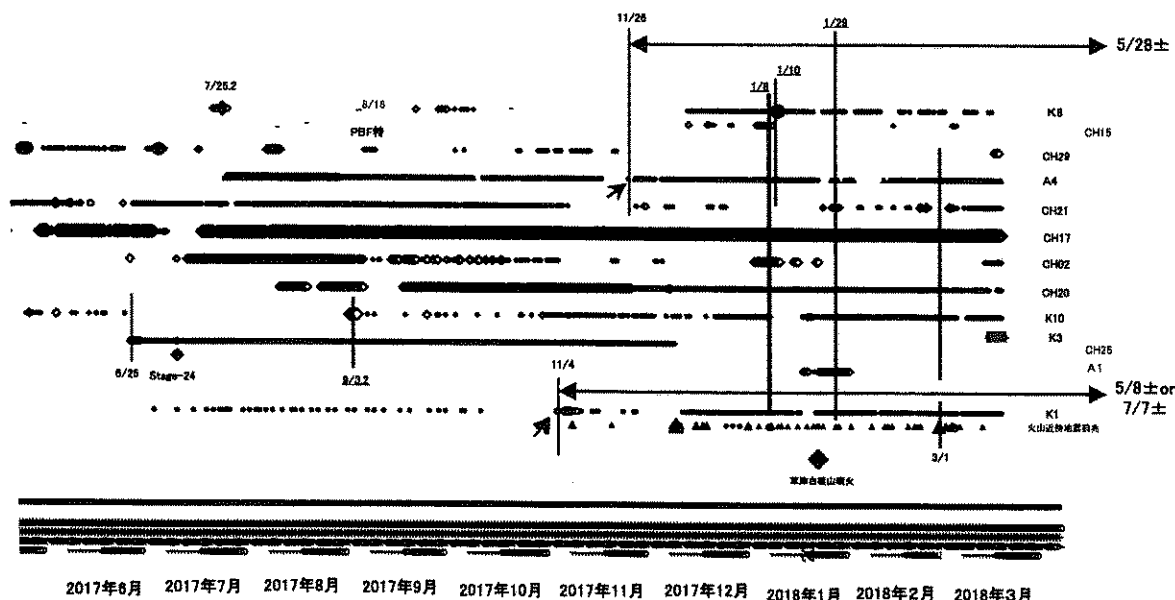
しかし、3/15からCH02に特異前兆が出現しだしています。他の前兆も現在継続出現中であり、ここ数日、今まで静穏だった観測装置にも前兆が出現しだしています。

これらのことから、04月06日±の可能性は否定できます。以前の前兆関係から可能性を考えた認識は間違っていたことが明らかです。大変申し訳ございません。

新たに前兆関係を見直していますが、05月初旬～07月初旬まで、幾つかの可能性が否定できませんが、少なくとも、早い場合でも05月以降の可能性が出ることから、04月末まで、当該前兆に対する地震活動は発生しないと考えます。

今後の前兆を観測し、今までの前兆出現状況を鑑み、考察したいと考えます。

いずれにしても、前兆が終息したのを観測すれば、発生日を計算できますので、前兆終息後に計算したいと考えます。



※当該前兆から推定される「領域」「規模」等につきましては本紙以前の続報をご参照下さい。現在発生時期以外修正無し。